

# エピソード65

## 不登校だったアサヒ君の お母さんの気持ち

このエピソードでは、教職経験3年目、25歳女性の先生の経験を紹介します。



ジュリさん  
教師を目指して勉強中



先生は、5年生の担任をされているそうです。

アサヒ君は低学年のうちから登校しぶりがあり、4年生からは全く学校に来なくなっていました。その時の担任は何度か登校を促したのですが、保護者の意向だからとその後は特にコンタクトをとることがなくなっていました。

私は担任をもってすぐにアサヒ君のお母さんにスクールカウンセラーの相談を勧めてみました。その年からのカウンセラーの先生がとても親和的な方だったので、なにかきっかけが出来るのではないかと思ったのです。

するとアサヒ君のお母さんは是非といってくれました。カウンセラーには自分の育て方に問題があったのではないか？など今まで語っていなかった気持ちを吐露していたようです。

親子で定期的に相談に来るようになり、良い感じかと思いましたが、その後またぷっつりと登校が止まってしまいました。残念な気持ちでしたが、アサヒ君の気持ちが向くまでは、無理強いしないで定期的に自宅訪問を繰り返していました。



それは、残念ですね。



それから、どのようなことがあったのでしょうか。

すると冬休み明けのスキー学習から学校に来るようになったのです。学校を休んでいた間、音楽サークルに入っていたのですが、金賞を取って、さらに大きな大会に出たのでした。

なにか気持ちに変化が起きたのでしょうか？とお母さんとも話しました。自分に自信が持てたのかもしれないとお母さんは言っていました。

私は下手に焦らなくてよかった、学校ばかりが子どもの未来を拓くのではないかもしれない、時には社会での関りが重要であったりするのだなと思わされました。

登校のきっかけはどこにあるかわかりません。登校できなかった期間も繋がっていたお母さんとの関係も良好に毎日が進んでいます。



# ジュリさんの気づき



- 「学校ばかりが子どもの未来を拓くのではないかもしれない、時には社会での関りが重要であったりする」という先生のことばを大事にしたいなと思いました。
- 登校のきっかけ、子どもと会える、子どもが社会とつながれるきっかけはないかな…とアンテナを張ることを大切にしたいと思います。

# お・し・ま・い

## 若い先生の保護者支援



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーの経験をもとにした架空のエピソードです。>

イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)